

小樽市人口対策会議（第1回）概要

- ・日 時 平成26年11月28日（金）午後3時00分～午後5時06分
- ・場 所 市長応接室
- ・出席者 鈴木座長、石川委員、布谷委員、佐林委員、高橋委員、新谷委員、山川委員、片岡委員、佐藤委員、荒木委員、貞村委員
- ・事務局 総務部企画政策室長、企画政策室主幹、企画政策室主査

事務局 開会宣告。
市長から委嘱状を交付する。

（委嘱状の交付）

市長 市長挨拶。

事務局 「小樽市人口対策会議設置要綱」第4条第1項に基づき、市長から座長を指名する。

市長 小樽商科大学副学長の鈴木副学長に座長をお願いする。

鈴木座長 座長挨拶。

（市長退席）

鈴木座長 各委員に自己紹介を兼ねて挨拶を求める。

（各委員から挨拶）

鈴木座長 議事（1）「小樽市人口対策会議」の設置について、事務局から説明を求める。

事務局 資料1に基づき説明。
今後の会議は2月、5月、8月、10月を予定している。
この会議に諮りたいことが2点ある。
一つ目は「会議の公開・非公開について」だが、事務局案としては自由な議

論を担保したいということもあり、会議は非公開としたいと考えている。

二つ目は「会議の資料及び会議の概要について」だが、事務局案としては公表するというを考えている。

以上、二点について審議いただきたい。

鈴木座長 事務局から説明のあった件について、意見や質問を求める。

(「特にありません」と発言する委員あり)

鈴木座長 それでは、事務局案どおり決定することにする。

議事(2)小樽市の人口動向等及び人口対策に係る取組状況について、事務局から説明を求める。

事務局 資料2及び道内各市の人口動向資料に基づき説明。

鈴木座長 事務局からの説明に対し、質問はないか。

片岡委員 住民基本台帳と国勢調査で世帯数に大きな違いがある理由は何か。

事務局 住民基本台帳は住民登録によるものだが、国勢調査は住民票とは関係なく、実態で調査しているものであるため違いがある。

高橋委員 流入・流出人口を見ると、小樽から札幌に通う人より札幌から小樽に通っている人の方が多いが、これは何故か。

事務局 いろいろなケースが想定されるが、例えば

①もともと札幌に勤めて札幌に住んでいる人が、小樽に転勤になる場合

②小樽に勤めて小樽に住んでいた人が札幌に家を建てた場合

③銭函や石狩湾新港地区に誘致した企業に勤めている人で、近くの札幌から通っている人

などが考えられる。

高橋委員 市役所の職員でも結構な人数が札幌から通っているのではないか。

貞村委員 そうした声を聞くので一度調査ところ医師ではいるが、市役所職員では1%

に満たない程度である。

募集案内には市内居住を基本とすると書いているが、採用条件にはできない。面接時には市内に住む意思があるか必ず聞いている。

佐林委員 小樽と札幌はJRで32分ということだが、同じような環境の北広島や千歳は増えているのに、小樽は産炭地並みに減っているのは何故か。

事務局 千歳方面と違うのは、小樽はもともとまちができていた状況にある上、山に囲まれているため新たな住宅地の造成ができなかったという面はある。千歳方面は平らな地勢の中でベッドタウンになりやすかったと考えている。

事務局 背後にある市町村による影響もある。例えば小樽であれば余市や仁木となるが、江別や北広島は背後に千歳や岩見沢がある。家を建てる時には、実家と札幌間のJR沿線で探す人も多いため、その影響もあると思う。

鈴木座長 小樽も望洋台で宅地造成をしたが、人口は減り、スーパーなども閉鎖されている。これは確かに鉄道から離れているからという点もあると思う。小樽で宅地造成を進めているところはないのか。

事務局 大規模なところは今はない。最近ではベイビュータウンが大きい。

貞村委員 望洋台も開発基本計画はあるが、計画どおりの造成が進んでいない。団地は作ったときはよいが、高齢化後の対策も大変である。

佐林委員 資料を見て気になったが、事業所数も年、100ずつくらい減少している。仕事柄その点が気になるが、商売がうまくいかなくて廃業するのではなく、後継者がいなくて自主廃業するケースが多い。やはり、産業の振興、雇用の確保がこれからの課題になると思う。

貞村委員 やはり、それがメインだと思う。

鈴木座長 新規求人は増えているようだが。

布谷委員 リーマンショックにより落ちたが、その後は景気の回復により増えている。拓銀が破綻したあたり以降の求人が少なかったため、今30代前半くらいの人

の時代は採用がなく、年代の格差が広がっている。その中間層をいかに確保するかというのが事業主の課題となり、当初はその年代を埋めるために求人を行っていたが、その年代が埋まりきらず、結果、新卒者にも求人は増えてきている。

鈴木座長 事業所の数は減っているが、求人は増えているのか。

布谷委員 そうである。1事業所あたりの求人数が増えており、事業所も将来を考えての求人が増えている。

鈴木座長 平成25年度で1万人くらいの新規求人があるようだが、これは以前に比べてどうなのか。

布谷委員 以前は求人数より求職者数が多かったが、最近は求職者より求人が多いという逆転現象が起きているので、求人倍率は0.91となっている。企業も将来を考えて、年代構成がいびつになっているということに対しての採用意欲が高まっている。小樽の0.91というのは全道並みである。

鈴木座長 その中で、新卒者が小樽に留まらず、札幌に転出しているようだが、それはなぜか。

布谷委員 小樽での高校新卒者の30～40%は地元に残るが、他は道内、道外に就職している。道外は多くないが、道内では札幌が一番多いことから、人口対策としてはいかに札幌に行くのを引き止めるかということになる。

佐林委員 小樽では高校新卒者の30～40%が小樽で就職しているとのことだが、小樽で就職したいという希望はどのくらいあるのか。

布谷委員 小樽での就職希望については、特に女性で事務系の職種を希望する人が多いが、地元で事務系の求人が少ないので女性の就職が決まるのが遅い傾向にある。

佐林委員 地元での雇用確保というのはとても重要だが、若い人は都会に出たい、大企業に勤めたいという希望とのアンマッチもあるのではないか。

布谷委員 都会に対する憧れもあるし、若い人であれば遊びたいという気持ちもあるの

でそういった傾向はあるかと思う。

鈴木座長 求人が増えても女性の事務職というのは少ないのか。

布谷委員 一番増えているのはパートで、求人の4割にあたる。主婦などで5～6時間勤務という求人が多い。なので学卒者がそこに入るのは難しい。

パートで採用して、業績が上がれば正規雇用に切り替えるというケースも多い。正社員となれば生活が安定して、そこに留まるというケースも多いので、そうなるよう政策は打っているが、すぐに効くものではない。現実には人手不足の状態なので、事業所も正社員として採用し、育てて人材確保していくということを考えていかなければならないと思う。

山川委員 最近、小樽商科大学の学生で4年を過ぎてもまだ勉強したいが寮を出なければならぬという人と、親が亡くなって空き家があるので誰でもいいから住んでほしいという人の橋渡しをしたケースがある。

以前に比べ今の商大生は「まち」との関わりが深くなっており、そういう意味では開かれた学校となっている。

このように、商大に入学した学生で自宅から通えない人は小樽に住んでもらうようにすれば人口対策になると思う。

最上や緑、松ヶ枝などには空き家もあるので、こうした所に住んでもらえば通学の時間はかからなくなり、もっと小樽との関わりが深くなれると思う。

もう一つは国の問題になると思うが、小樽が明治時代に発展したのは石炭とニシンと樺太のおかげであり、小樽というまちは船が入らなければ発展しないといつも思っている。商工会議所が、こうしたサハリンの経済に対し、何年かけてでも実態調査をして、民間で何とかならないのかと思う。例えば以前に玉ねぎが豊作で捨てた年もあった。しかし、サハリンでは宝石のようなもので欲しがっている。そういう意味では小樽はサハリンなど、日本海側との交易を考えていかなければ絶対に人口は増えない。民間でそういうことを進めなければだめだと思う。

鈴木座長 潮陵高校では来年、小樽商大を70人が受験すると聞いている。

商大生が小樽に住むかどうかということについて、佐藤委員に聞く。

佐藤委員 自分は札幌出身で通学可能だが、今は学校から徒歩10分のところに住んでいる。札幌から小樽に移り住む人は中にはいるが、異例である。理由としては

自分は夜間主コースであり、夜が遅くなるという点から小樽に住むことを決断した。

片岡委員 以前に地域防災の関係で商科大学にアンケートをとった時、6割は札幌圏、小樽の学生は2割で本州からは2割といった状況であった。

鈴木座長 小樽商科大学は特殊な大学で、札幌圏からの入学者が年々増えており、道内が96%、本州からは4%しかいない。本州からの学生が増えれば、小樽に住む学生も増えると思うが、それが本校の課題でもある。

議事(3) ①人口動向のポイント、人口減少要因について

②人口対策の検討に向けたポイント

について、事務局から説明を求める。

事務局 資料3-1、3-2に基づき説明。

鈴木座長 事務局からの説明は、この会議の今後の議論の中心になるものであり、どう取組を進めていくべきかの元となるものなので、各委員からはそれぞれの活躍の分野でも他の分野でも構わないので、重要と考えるポイントや記載はないが大事と考えるポイントなど率直な質問や意見をいただきたい。

片岡委員 11月19日に開催された町会長と市との定例連絡会議で、新しい市立病院には産科がないという話を聞いた。協会病院も産婦人科医師の退職が見込まれることから新規分娩の受付を休止するという話もあるので、是非、市立病院に産科を設けてほしい。安心して生み育てられるようにするには、まず生む場所がなければ始まらないので要望する。

鈴木座長 市としては、この件についてどう考えているのか。

貞村委員 本来は作るべきものなのだろうが、医師も減る中、各病院が共倒れになるので、医師会も含め各公的病院と何度も集まり、医療分業しようという話合いをした。その中で周産期については協会病院が是非、うちでやるということになった経過もあり、平成20年以降、再編・ネットワーク化協議会においても確認し、新小樽病院の計画の段階では外すこととなった。

今、協会病院での周産期の件については、医大の医局とも話をしているが、医局の人事の関係もあるので行政が入り込む余地がない。市としては、医師

を確保するように後押ししていくことになるが、産婦人科の医師が少ない時代なので、うまくいくかどうかは分からない。協会病院ががんばると言っているので、今、市立病院がどうこうするという状況ではないが、いずれにしても市としては、何とか確保できるように後押しをしていく。

今後どうにもならなくなったときは、医師会も含めた全体の問題なので協議することになるが、まずは医師を探すのが先決である。

鈴木座長 子育てに関して、新谷委員から意見はないか。

新谷委員 現実に双子の母親になる人から、小樽では産めないで札幌に行ったという話を聞いた。

貞村委員 協会病院は周産期センターで本来、異常分娩を扱う病院であるため、医局から医師を派遣してもらい、医師のスキルアップをすることが大学病院としての目的でもある。しかし、困難が伴う異常分娩を札幌の病院に回していたのでは医局は医師を派遣しにくくなる。そういったことも解決するように努力しなければならないので、時間はかかるかもしれないが、市としてはなくすることは考えていないので、現段階で詳細なことは言えないが、何らかの方向を出すようにしたい。

新谷委員 現状に驚いているので、今後に期待している。

高橋委員 これまでの人口対策を市でまとめているが、新規高等学校卒業者雇用奨励金は平成23年度で終わっている。また若年者定住促進家賃補助金は平成17年度で終わっている。これは予算の関係でやめたのか。

事務局 卒業者雇用奨励金は、国の予算で行った事業であり、期間限定であったためまさに財源の関係でやめている。家賃補助は数年実施したが、この事業により小樽に来たのかどうか、効果が検証できないという実態があった。

高橋委員 今後、この会議を通じて復活するということはあるのか。

事務局 現段階では大枠しか決めていない状況であり、具体の施策についてはこの会議や庁内検討会議で、どの部分に集中的に取り組んでいくのか、これからの検討であると考えている。

鈴木座長 小樽の商店街も衰退している。これはウイングベイができてからという面もあると思うが、荒木委員の意見はどうか。

荒木委員 ウイングベイが出来たころ、自分は高校生で多くの雇用もあった。しかし、札幌が隣にあるので、札幌と同じものを作っても飽きる。今も空き店舗はすごくあり、平日は人もいない。うまく雇用に繋がっていないのが現状である。

鈴木座長 小樽のまちの税金や公共料金は札幌に比べてどうなのか。

事務局 税金は変わらない。公共料金、例えば水道・下水道については各市で差があるので調べさせてもらいたい。

貞村委員 水道料金は札幌より安い。
石川委員に聞くが、北海道は今、人口対策の検討についてどこまで進んでいるのか。

石川委員 現在は知事がトップの組織を立ち上げたところである。取組指針は今年度中にまとめられるので、それを踏まえ地方版総合戦略は来年度中に作ろうとしている。

貞村委員 来年度からすぐ政策予算が出てくるということはないのか。

石川委員 取組指針が今年度中に示されるので、それを先取りして政策予算に乘せられるものは乗せようということで検討しているので、小樽市の取組と同じスタンスである。

貞村委員 5月から6月に示される重点施策を見ればある程度分かるということか。

石川委員 そう思う。

鈴木座長 来年の10月くらいに結論というのも同じペースか。

石川委員 そうである。

鈴木座長 今の委員の意見は、事務局で整理し、市役所の庁内検討会議の議論につな

げるとともに、次回以降は具体的な議論をしていかなければならないと考えている。

その他についてだが、次回の会議は2月上旬をめどに開催することとし、日程調整は事務局から行う。

本日の資料について何か疑問等があれば、事務局に問い合わせしてほしい。
閉会宣告。